

市町村名		豊見城市					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③		観光振興地域環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	経済建設部 道路課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	南国沖縄らしい景観や、魅力ある観光地づくりを図るため、大型商業施設及び宿泊施設などが所在する豊崎、瀬長地域の市道植樹木の除草清掃や、プランターの植栽管理を行い美化強化に努め、魅力ある観光地づくりに取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200
	(b) 予算現額	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	
	B. 執行済額	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	
	うち交付金充当額	4,960	4,960	4,960	4,960	4,960	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
	植栽木の管理(除草清掃・防除工)	目標	H30年度 (植樹木の除草・清掃)	R1年度 (植樹木の除草・清掃)	R2年度 (植樹木の除草・清掃)	R3年度 (植樹木の除草・清掃)	
		実績	植樹木の除草・清掃	植樹木の除草・清掃	植樹木の除草・清掃	植樹木の除草・清掃	
	プランターの植栽管理(灌水)	目標	H30年度 (プランターの植栽管理)	R1年度 (プランターの植栽管理)	R2年度 (プランターの植栽管理)	R3年度 (プランターの植栽管理)	
		実績	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬長島、豊崎地区の植栽木の抜根除草及び除草剤散布等を行った。 ・平成25年度に設置したプランターへの灌水等を実施し植栽管理を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		81%	74%	91%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	植樹木・プランター等についてのアンケート調査を、年度末の3月に本市の主要観光地である豊見城市観光プラザにて実施した。32名からの回答を集計した結果、91%が「魅力的な観光地の景観である」と回答し、目標値である80%を達成できた。前年度からの改善として、必要以上に成長し、繁茂した草花について剪定をすることで適正管理に努めた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果について「魅力的な観光地の景観である」との回答が91%となっているが、「どちらとも思わない」と回答した人が9%いるため、プランターや植樹樹を適正に管理する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> プランター内の花木が枯れないよう検討する。 植樹樹へ落ちていたヤシの葉や不要になっている添え木を撤去する。

今後の取り組み方針

- 令和4年度においては灌水回数を増やす予定であるが、施肥を行い成長を促す。
- 市作業員にて定期的に巡回し、ヤシの葉や不要になっている添え木を撤去し、美化に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,200	6,200	4,960	1,240	0



・植樹樹の除草清掃及びプランターへの灌水等に係る委託業務

資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札により決定しており、妥当であったと考えられる。 ○予算規模は、積算基準等に基づいて編成しており、適正であったと考えられる。 ○費用・用途について委託業務に必要な除草清掃費用、プランター灌水費用を計上しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	放課後児童クラブ利用支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	こども未来部 こども応援課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4	
事業内容	ひとり親への減免を行っている放課後児童クラブへ一定額の支援を行うことにより保護者の子育てへの負担感の軽減を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,644	5,112			
		(b) 予算現額	4,644	5,658			
		(c) 増減額(b-a)	0	546	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	4,644	5,658	0	0	0
	B. 執行済額		4,308	5,398			
	うち交付金充当額		3,446	4,318			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		92.8%	95.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		予算額に対する執行済額の割合(執行率)が95.4%であることから、多額の不用額もなく概ね予定通りに執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	ひとり親家庭等の児童クラブ利用者へ利用料を減免した児童クラブに対し、補助を行う。		目標 (129名)	(185名)	()	()	
	対象人数:185人分		実績 135名	177名			
			目標 ()	()	()	()	
達成状況説明		市内児童クラブのひとり親世帯対象者177名(目標より8名減)に対し、5,398千円の補助を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	安心・安全に子どもを預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業の在り方を検証する。		目標 ()	(80%)	(80%)	()	()
			実績	98%	97%		
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		対象となる児童の保護者177人にアンケートを実施した結果、132人から回答があり補助を受けたことで負担軽減となったとの回答が97%となり成果目標を上回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	保護者が児童クラブの減免を利用しやすい環境をつくることが重要なため、手続きの簡略化や、年度途中の支援を必要とする家庭への周知徹底が必要である。	周知活動を持続的に行い、補助を行っている児童クラブと協力し、継続的かつ円滑に事業を行っていく。

今後の取り組み方針

児童クラブの連絡会にて4月入所一斉受付に向けて事業の周知・情報交換を行い、継続的かつ円滑に事業を実施する。
またHPIにて周知を行うことで、補助必要者へ周知徹底を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
5,398	5,398	4,318	1,080	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、当該事業の要綱に規定している児童クラブであり、妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については当初の計画どおり執行されたと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である各児童クラブに対する補助額は、保育料の1/2以下であること、また、保護者の減免額分を補助額として負担しているのが妥当だと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、精算段階で目的に即しているか確認した。

市町村名		豊見城市				
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-①	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	小中学校に対し特別支援教育支援員を配置し、障害を持つ児童生徒の支援を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		(a) 当初予算額	74,053	67,252	52,975	67,157
	(b) 予算現額	54,954	36,369	42,226	44,977	66,095
	(c) 増減額(b-a)	▲ 19,099	▲ 30,883	▲ 10,749	▲ 22,180	▲ 8,029
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	54,954	36,369	42,226	44,977	66,095
	B. 執行済額	56,000	35,643	36,238	41,213	62,046
	うち交付金充当額	44,799	28,514	28,990	32,970	49,636
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	101.9%	98.0%	85.8%	91.6%	93.9%
予算の状況の説明	当初計画では特別支援教育支援員を30人雇用予定であったが、年度当初欠員が生じてスタートした事と、最終的に29人の任用にとどまったことから、報酬及び期末手当等について8,029千円余の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)	達成状況				
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	特別支援教育支援員配置数:30人	目標	(26人)	(30人)	(30人)	(30人)
		実績	27人	29人	26人	29人
	特別支援教育コーディネーターの派遣による教育相談、指導助言、面談等の実施	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)
実績		1人	1人	0人	1人	
達成状況説明	年度当初より30人の任用予定であったが、欠員状態が続き最終的には29人の任用にとどまった。特別支援教育コーディネーターについては、年度当初より人材確保し配置することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
		特別支援教育支援員の対応への満足度(80%)を含め、保護者アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	(80%)	(80%)	(80%)
		実績	82.60%	85%	81%	
		目標	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	特別支援教育支援員の支援を受けている児童生徒102人の保護者にアンケートを実施した結果、36人の保護者より回答があった。特別支援教育支援員の配置により児童生徒の成長に対し「大変満足している」が31%(11人)、「概ね満足」が50%(18人)となり、81%(29人)の方が効果を実感いただいている結果となった。					

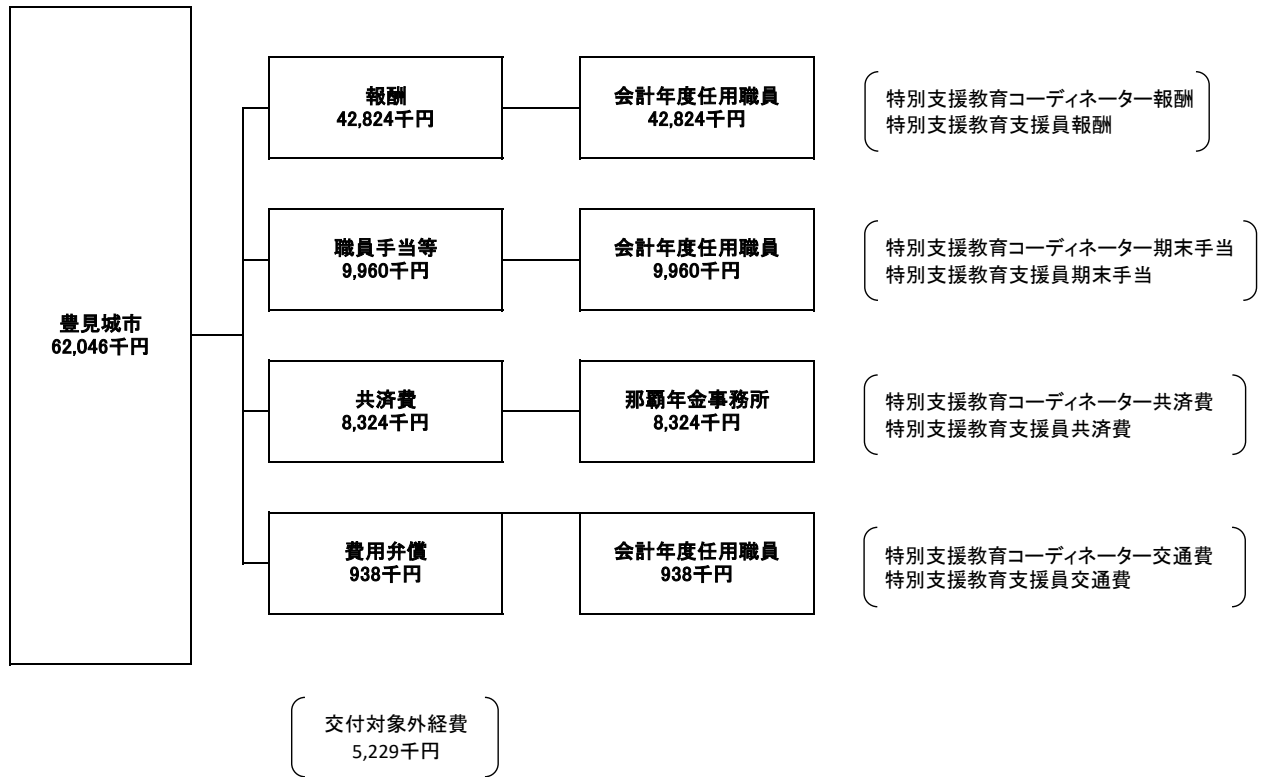
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の配置に対する満足度が目標値を上回っているが、不満をもっている保護者の意見もあり、人材確保と同時に保護者への対応について検討を要する。 ・特別な支援を必要とする児童生徒の地域小中学校への就学希望が増えており、進学・進級先等について保護者と十分協議する必要がある、今後も支援員の必要性が増してくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートによる支援員の配置に対し満足できていない保護者の意見内容について確認し、必要に応じて支援員の対応を検討する必要がある。 ・当初計画とおりの支援員が確保できていないため、年度当初より支援員の確保が必要である。

今後の取り組み方針

本事業の更なる充実を図るため、特別支援教育支援員のスキル向上のための研修会を実施するとともに、年度当初から特別支援教育支援員を配置できるよう求人案内を従前の方法に加え、WEB等を活用した新たな求人方法を取り入れ幅広く採用情報を提供していく事とする。また、人事評価制度と昇給制度を活用しながら有能な特別支援教育支援員の継続確保に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
67,275	62,046	49,636	12,410	5,229



資金の流 れ、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育支援員の採用については、面接を行って採用している。 ○予算規模は事業に見合った規模であると考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		豊見城市					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	学力向上サポート事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	小中学校の教員の補助として学力向上推進補助員を配置し、きめ細かい支援を行うことで学力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(4 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	22,719	23,192	22,909	26,579	28,631
		(b) 予算現額	20,808	20,720	22,392	22,561	25,550
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,911	▲ 2,472	▲ 517	▲ 4,018	▲ 3,081
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	20,808	20,720	22,392	22,561	25,550
	B. 執行済額		20,915	20,014	21,614	22,103	24,439
	うち交付金充当額		16,732	16,011	17,291	17,682	19,551
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.5%	96.6%	96.5%	98.0%	95.7%
予算の状況の説明		当初計画では学力向上推進補助員を11人雇用予定し採用に至ったが、年度途中で退職者が出て欠員期間があったことから、欠員分の報酬等において3,000千円余の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	学力向上推進補助員配置数:11人 小学校:8人 中学校:3人		目標 (小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	
			実績 小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	
			目標 () () () ()	() () () ()	() () () ()	() () () ()	
達成状況説明		年度途中で1人退職者が出たが、その後新規採用を行う事ができ、各校へ配置する事ができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差		目標 () () () () () ()	(小:+2.8 中:+1.9)	(小:+2.6 中:+1.0)	(小:+2.7 中:+0.6)	(小:+2.7 中:+0.6)
	小学校:+2.7ポイント 中学校:+0.6ポイント		実績	小:+2.9 中:-0.7	小:+3.2 中:-1.2	小:+2.0 中:-2.6	
			目標 () () () () () ()	() () () () () ()	() () () () () ()	() () () () () ()	
			実績				
進捗状況説明		小学校 小学5、6年生を対象に実施した学力到達度調査において県平均60.8ポイントに対し市平均が62.8ポイントとなり+2.0ポイント市平均が県平均を上回った。 中学校 中学1、2年生を対象に実施した学力到達度調査では、県平均47.8ポイントに対し市平均が45.2ポイントとなり-2.6ポイント市平均が県平均を下回った。					

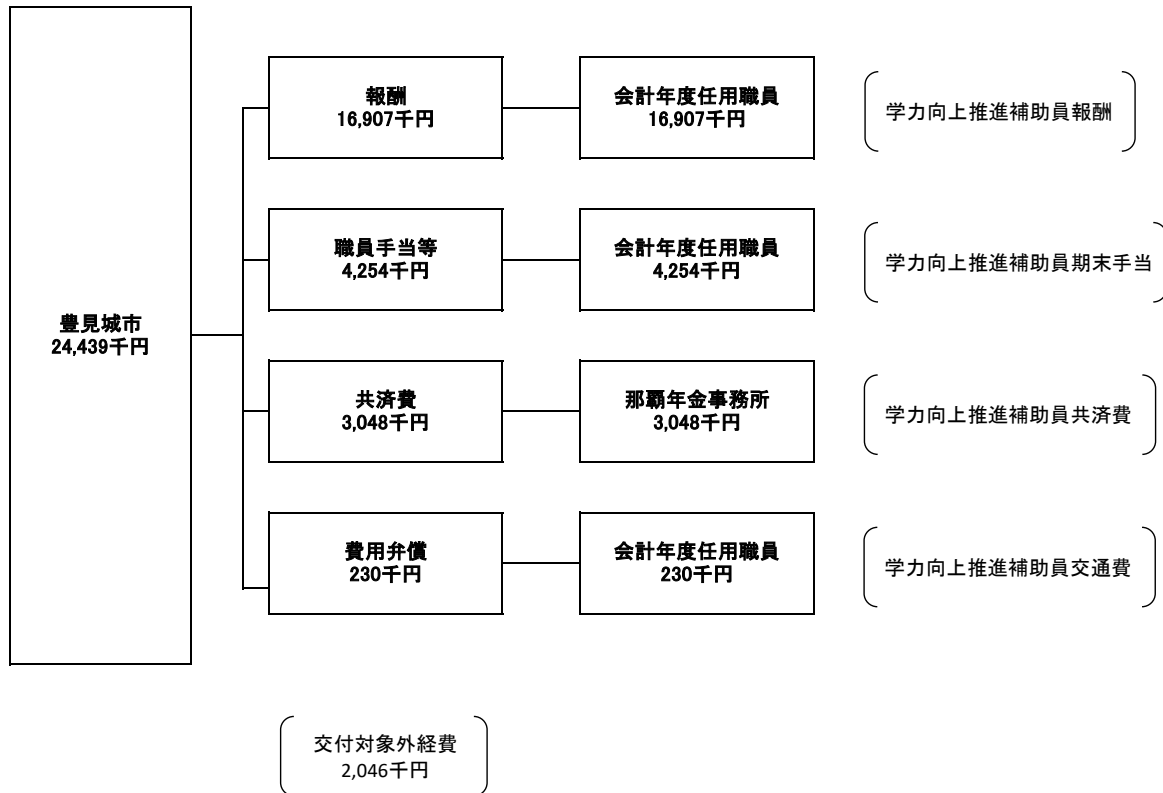
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各中学校の状況を確認すると、教科によって県平均を上回るものと下回るものがあり、学力定着率が低い教科の底上げが課題である。 また、県においても到達度調査結果が例年より低くなっている事から、コロナ禍における外部環境の変化も考えられる。	教諭との連携や教材研究等によるスムーズな授業運営の補助ができるよう補助員のスキル向上の取り組みが必要である。

今後の取り組み方針

・年度当初の学力向上推進補助員配置計画段階において、各校の学力定着度を勘案して補助員の配置を行い、スムーズな授業補助へつなげる。
 ・教諭との授業連携をスムーズに行えるよう、教育委員会が進める学力向上施策の情報共有を図るとともに、学力向上推進補助員のスキル向上研修を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
26,485	24,439	19,551	4,888	2,046



資金の流 れ、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○学力向上推進補助員の採用については、面接を行って採用している。 ○予算規模は事業に見合った規模であるとする。 ○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市				
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-③	スクールソーシャルワーカー配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成27年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境(家庭や友人関係等)の改善のためスクールソーシャルワーカーを配置する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		(a) 当初予算額	5,901	5,901	5,900	6,998
	(b) 予算現額	5,527	5,492	5,900	6,162	5,855
	(c) 増減額(b-a)	▲ 374	▲ 409	0	▲ 836	▲ 1,957
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	5,527	5,492	5,900	6,162	5,855
	B. 執行済額	5,503	5,443	5,706	6,003	5,527
	うち交付金充当額	4,402	4,354	4,564	4,802	4,421
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	99.6%	99.1%	96.7%	97.4%	94.4%
予算の状況の説明	スクールソーシャルワーカーを年度当初の一定期間2名しか採用する事ができず、1名分の欠員期間があった事により不要額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)	達成状況				
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	スクールソーシャルワーカーを3人配置する。市内小学校8校、中学校3校に対し巡回配置する。	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)
		実績	3人	3人	3人	3人
達成状況説明	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明		年度途中からは3人のスクールソーシャルワーカーを採用する事ができ、市内小中学校に巡回配置する事ができた。				
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
		支援対象ケース改善率:40.10% (改善ケース件数/支援対象ケース件数)	()	(36.00%)	(39.50%)	(40.10%)
	実績		41.73%	61.74%	51.90%	
	目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	実績					
	支援対象件数129件中、問題が改善された件数25件、状況が好転した件数42件となり改善率51.9%で目標達成となった。					

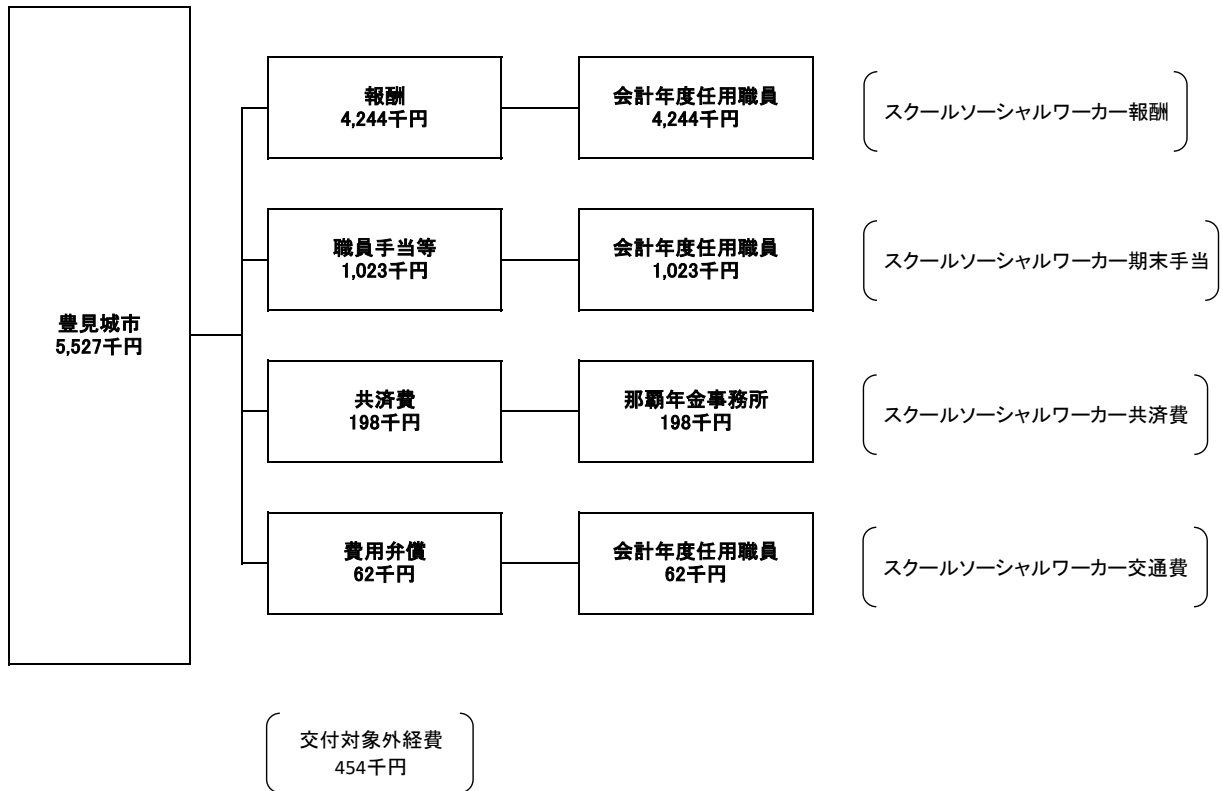
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・状況が好転されたケースについても問題改善へとつながらず長引くケースがある事から引き続き支援が必要となる。 ・年々、支援対象件数も増加傾向にあり、多種多様なケースへの対応が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーを継続雇用し、長引くケースへの支援継続を図る。 ・多種多様なケースに対応するため、スクールソーシャルワーカーの質向上に向けた研修などの機会を設ける事を検討する。

今後の取り組み方針

支援対象件数が増加傾向にある事から、スクールソーシャルワーカーのスキルアップにつながるような研修会や、庁内関係部署との情報共有を図り、スクールソーシャルワーカーが活動しやすい環境を整えていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

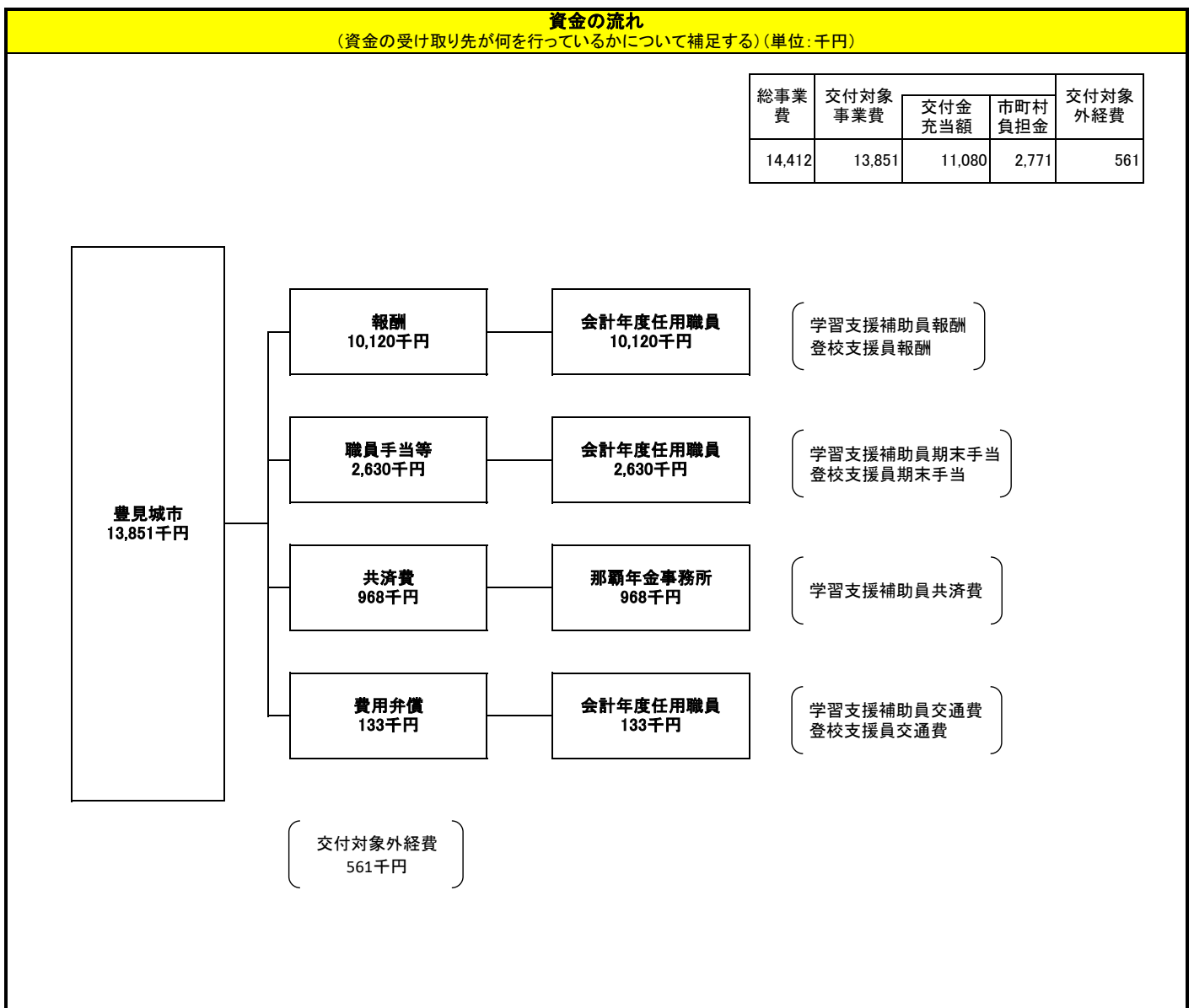
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
5,981	5,527	4,421	1,106	454



資金の流 れ、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○スクールソーシャルワーカーの採用については、面接を行って採用している。 ○予算規模は事業に見合った規模であるとする。 ○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④		不登校等対策支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
担当部課名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	教室に入ることのできない生徒に対する別室支援を行うため中学校へ学習支援員を配置するとともに、不登校の児童生徒の居場所として設置している適応指導教室へ学習支援員を配置する。また、不登校対策として小学校に対し登校支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(4 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,344	14,139	10,049	15,112	16,485
		(b) 予算現額	16,960	13,258	9,550	11,394	14,720
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,384	▲ 881	▲ 499	▲ 3,718	▲ 1,765
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	16,960	13,258	9,550	11,394	14,720
	B. 執行済額		16,696	12,931	9,456	11,175	13,851
	うち交付金充当額		13,356	10,344	7,565	8,940	11,080
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.4%	97.5%	99.0%	98.1%	94.1%
予算の状況の説明		コロナの影響で、令和4年1月は臨時休校期間があり「勤務を要しない日」が多かったことから不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	学習支援補助員配置数:3人 中学校:1人 適応指導教室:2人		目標 (中:1人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	
			実績 中:1人 適:2人	中:1人 適:2人	中:1人 適:2人	中:1人 適:2人	
	登校支援員配置数:8人 市内8小学校に1人ずつ配置		目標 (4人)	(4人)	(8人)	(8人)	
		実績 4人	4人	8人	8人		
達成状況説明	適応指導教室や中学校に配置する学習支援補助員及び登校支援員についても配置が行えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	不登校児童生徒復帰率:20%以上 (学校復帰人数/新規不登校者数)		目標 ()	(20%以上)	(20%以上)	(20%以上)	(20%以上)
			実績	18.48%	38.16%	23.53%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	小学校では不登校児童71人に対し6人が登校復帰した。また、中学校では不登校生徒116人に対し38人が登校復帰した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	不登校児童生徒が増加傾向にある中、コロナ禍による影響もあって、登校復帰率が前年度と比較すると低い数値となった。	計画どおりの支援員配置の取り組み、切れ目のない支援を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
不登校対策は初期段階から切れ目なく継続して支援する必要がある事から、支援員の継続雇用へとつながるよう学校側と連携し働く環境の充実に努めるとともに、支援員採用に際してはWEB等を活用するなど幅広い層へ働きかけるよう取り組む。また、人事評価制度や昇給制度を活用しながら有能な人材を継続して雇用できるよう取り組む。		



資金の流 れ、 点 検 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援補助員や登校支援員の採用については、面接を行って採用している。 ○予算規模は事業に見合った規模であるとする。 ○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	英語教育推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	英語への興味・関心を高め、英語の学力向上に繋げるため、中学校へ外国人英語講師を配置し、小学校へ日本人英語講師を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,876	20,296	21,975	26,996	28,096
		(b) 予算現額	20,876	20,296	21,423	25,962	26,663
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 552	▲ 1,034	▲ 1,433
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	20,876	20,296	21,423	25,962	26,663
	B. 執行済額		20,380	20,232	20,703	24,991	24,128
	うち交付金充当額		16,303	16,185	16,562	19,993	19,302
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.6%	99.7%	96.6%	96.3%	90.5%
予算の状況の説明		年度途中の外国人英語講師の退職と新規採用により一部報酬等に不用額が生じた。また、小学校への日本人英語講師派遣については、コロナウイルス感染症の影響により予定していた授業コマ数が実施できず委託料に一部不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	外国人英語講師(ALT)の配置:3人	目標	(4人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
	日本人英語講師(JTE)の派遣:小学校8校	目標	(8校)	(8校)	(8校)	(8校)	
実績		8校	8校	8校	8校		
達成状況説明	外国人英語講師については、年度当初より計画どおり3人の配置ができた。年度途中に1名の退職があったが、翌月には新たに採用する事ができた。日本人英語講師派遣については、計画どおり市内小学校全8校に対し講師を派遣する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	【小学校】 英語に対する興味・関心が高まった児童の割合73%以上	目標	()	(74%)	(73%)	(73%)	()
		実績		70.79%	83.06%	79.60%	
	【中学校】 沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差 +2.5ポイント以上	目標	()	(+4.0ポイント)	(+4.2ポイント)	(+2.5ポイント)	()
		実績		-2.5ポイント	-0.9ポイント	-4.1ポイント	
進捗状況説明	小学校でのアンケート調査では、「外国に行ったときに英語を使ってみたい」とする回答が最も多く、英語に対する関心の高さが伺えた。一方、中学校では県平均正答率との差にひらきがあり、県平均を上回っている中学校もあることから、到達度に乖離がみられる。(中学校) 県平均:47.8ポイント 市平均:43.7ポイント 差4.1ポイント						

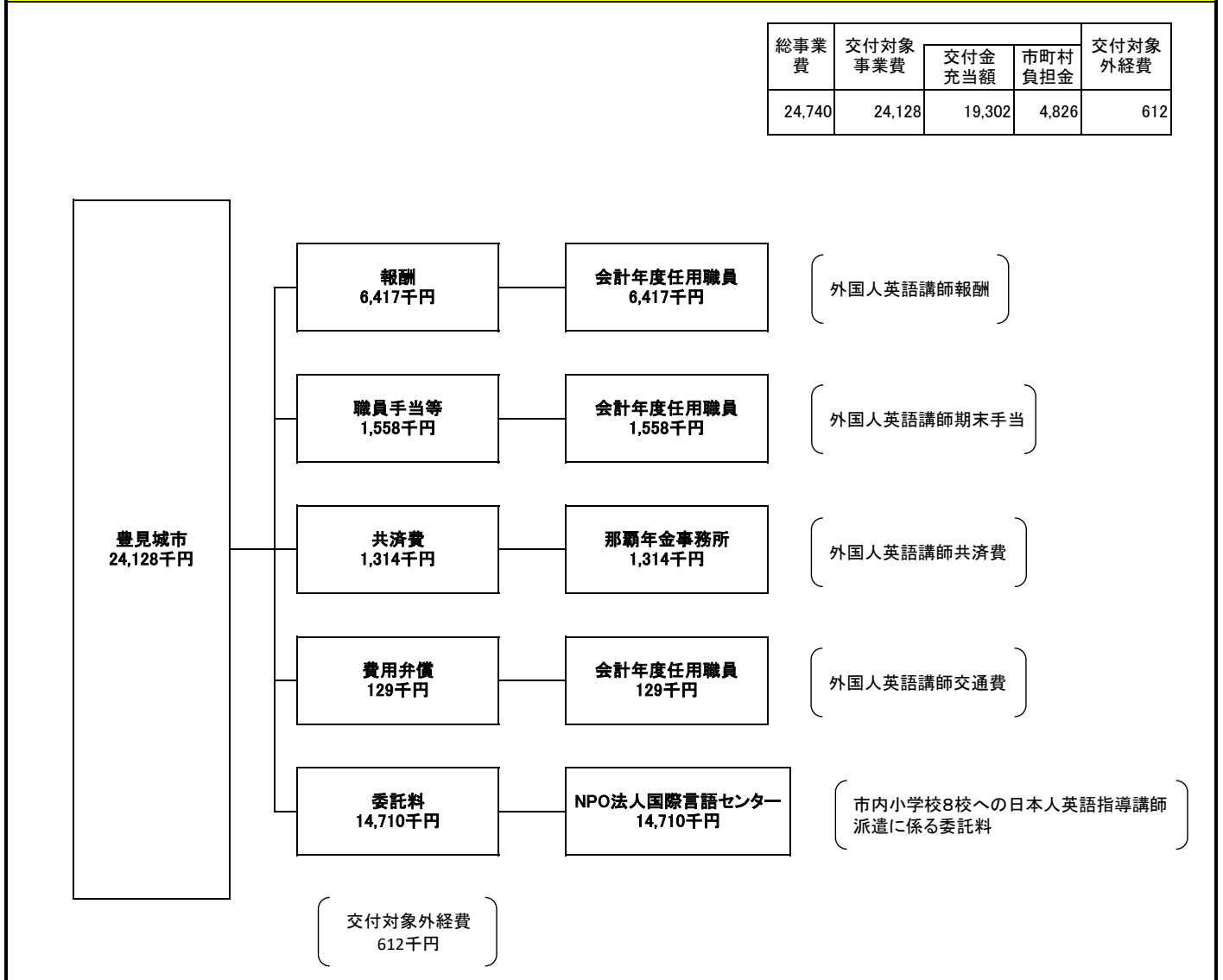
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	小学生 日本人英語講師の派遣により英会話を中心としたより実践的な授業展開により児童の英語に対する興味・関心が高まってきている。	小学生 教科化となった小学5、6年生を中心に講師派遣を行うことで日常英会話に触れる機会を増やし、中学校入学後の学力の接続へと繋げる。
	中学生 中学1年生・2年生共に県平均とのひらきが大きくなっており、コロナ感染拡大による臨時休校等による十分な授業時間の確保ができていないことから学力低下が懸念される。	中学生 授業の中でALTとの英会話コミュニケーションの時間を今までよりも確保するなどといった授業の進行方法にも工夫を入れ、英検等の各種検定についても積極的な受検を促すなど全体的な学力向上に向けた取り組みが必要と考える。

今後の取り組み方針

小学生
教科化を受けて担任教諭との連携がより必要となる事から、引き続き英語講師の派遣を進める。

中学生
これまでの県学力到達度調査を踏まえ、教育委員会と学校が連携し学力向上施策を進めるとともに、ALTと英語担当教諭とも情報共有を図り、英語学力の向上に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



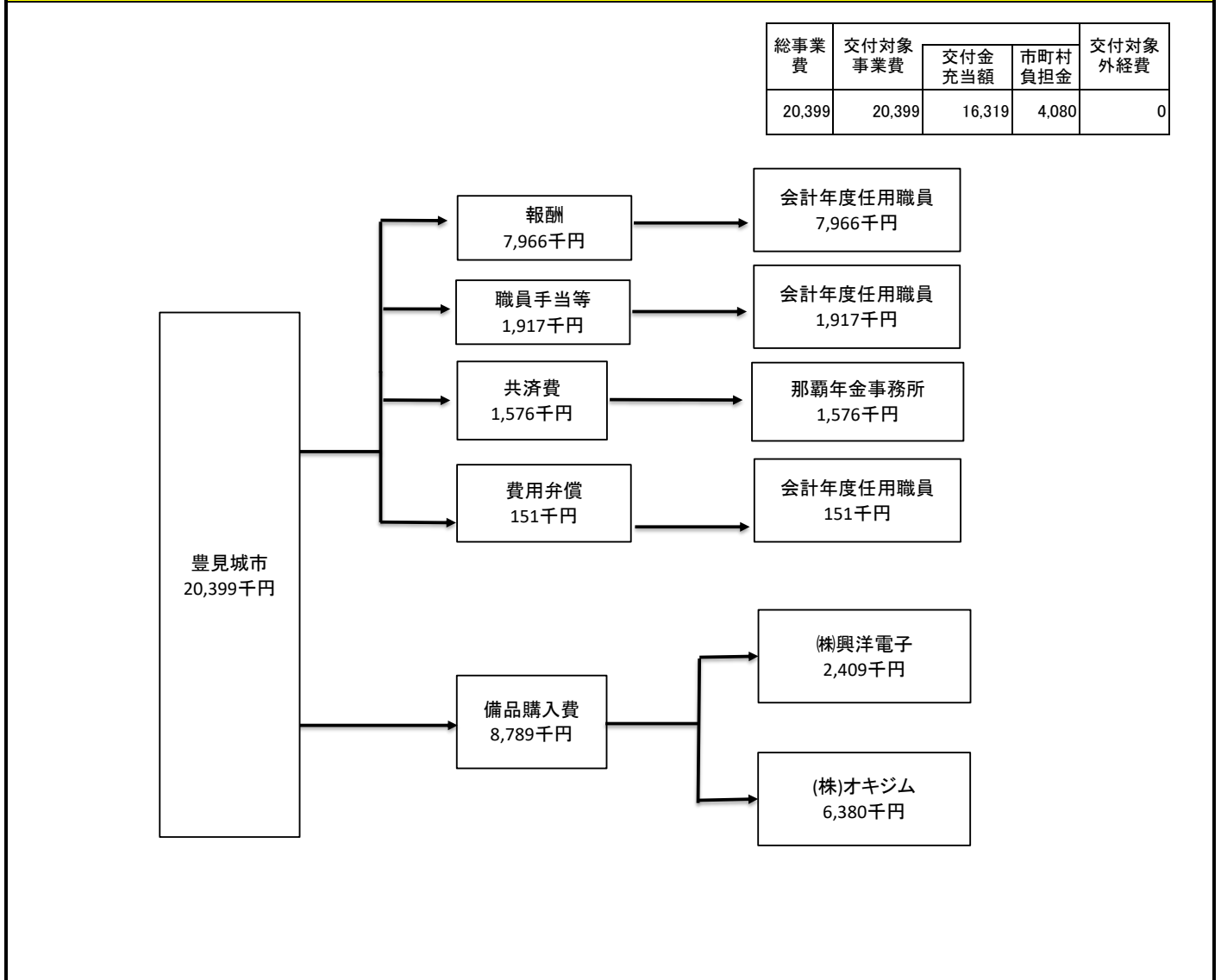
資金の流 れ、 点 検 ・ 費 目 ・ 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国人英語講師の採用については、面接を行って採用している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○NPO法人国際言語センターへの委託については、プロポーザルにより事業者を選定した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模は事業に見合った規模であると考えられる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。

市町村名		豊見城市					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥		ICT教育推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-(ア)	
	担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	令和1年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	分かりやすい授業により教育の質の向上を図り児童生徒の学力向上、情報活用能力の向上を図るため学校にICT機器を整備するとともにICT機器を活用した授業を支援するために情報教育補助員を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R1年度		R2年度		R3年度	
		(a) 当初予算額	56,763	46,959	28,413		
	(b) 予算現額	78,067	32,039	24,652			
	(c) 増減額(b-a)	21,304	▲ 14,920	▲ 3,761	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0			
	A. 計(b+d)	78,067	32,039	24,652	0	0	
	B. 執行済額	76,239	28,321	20,399			
	うち交付金充当額	60,991	22,657	16,319			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	97.7%	88.4%	82.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	<p>情報補助員について、計画どおりの配置ができなかったため、8,872千円減額した。 教師用タブレットPC12台分の入札残を2,364千円減額した。 電子黒板について8教室増に伴い12月補正にて7,475千円増額した。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
	情報教育指導補助員派遣数:11人	目標	(3人)	(3人)	(11人)	()	
		実績	2人	3人	8人		
	教師用タブレットPC整備台数:12台	目標	()	()	(12台)	()	
		実績			12台		
	電子黒板整備台数:8台	目標	(8台)	(15台)	(8台)	()	
実績		8台	15台	8台			
達成状況説明	<p>情報教育補助員については、延べ人数8人体制で小中学校への支援を行った。 教師用タブレットPCについて、当初計画とおり12台整備を行った。(指名競争入札) 電子黒板については、児童生徒数の推移により8学級増となったため、小中学校に対し8台整備を行った。(指名競争入札)</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、情報教育補助員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		81.00%	91.11%	93.91%	
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		93.29%	93.05%	88.68%	
	進捗状況説明	<p>教員へのアンケート結果 教員に対するアンケートを実施した結果、自身のICT機器の習熟度が上がったと答えた教員は93.91%となり目標達成し、分かりやすい授業を実施することに役立った。</p> <p>児童生徒へのアンケート結果 児童生徒に対するアンケート結果は、小学校で889人にアンケート調査を実施した結果、87.40%の児童がICTを活用した授業が分かりやすかったと答え、中学校では242人中、93.39%の生徒がICTを活用した授業が分かりやすかったと答え、目標を上回る児童生徒が効果を実感いただいている結果となった。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大でオンライン授業の機会が増え、電子黒板や学習用端末を活用する機会が増えたことで、オンライン授業に向けての研修等が実施されたことで教員の習熟は上昇している。しかし、児童生徒においては目標値を上回っているが、令和2年度と比較すると下回っている。昨年は、感染症等の影響で児童生徒へ学習者用端末の操作支援の時間が減少したことが原因と考えられる。</p>	<p>今後は、教員のスキルの維持向上及びサポートを引き続き行うほか、児童生徒に対しても操作支援を行うことで、学習用端末の基本操作の習熟を図る必要がある。</p>

今後の取り組み方針
<p>学習用端末や電子黒板等の充実及び維持更新を行うとともに教員のICTスキル等の向上を図るため研修会を実施する。また、児童生徒に対して学習用端末の操作等の支援を行い、ITリテラシーの向上を図る。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○電子黒板の購入先は指名競争入札により適正に選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○デジタル教科書は、採択した教科書の販売元が限られているため随意契約としている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成のために必要であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

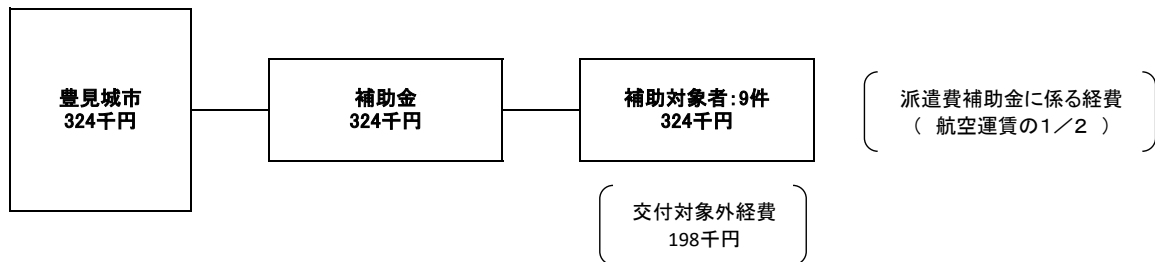
市町村名		豊見城市				
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-⑦	児童生徒派遣費補助事業(部活分)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	県外で開催される部活動における大会等及び選抜選手による合同練習に参加する児童生徒に対し、派遣費の補助を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		(a) 当初予算額	6,840	2,520	4,480	2,520
	(b) 予算現額	6,840	2,520	5,276	0	324
	(c) 増減額(b-a)	0	0	796	▲ 2,520	▲ 2,196
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	6,840	2,520	5,276	0	324
	B. 執行済額	5,920	2,078	4,891	0	324
	うち交付金充当額	4,735	1,662	2,345	0	259
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	86.5%	82.5%	92.7%	#DIV/0!	100.0%
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症により派遣対象の大会が見込みより下回った為、事業費減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)	達成状況				
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	児童生徒派遣費の一部を補助	目標	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)
		実績	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助
	達成状況説明	目標	()	()	()	()
実績						
新型コロナウイルス感染症の影響により派遣対象となる大会の開催が減っているが、9件の競技大会にかかる派遣費を補助する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
		対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	()	(80%)	(80%)	(80%)
	実績		100%	0%	100%	
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症の影響により多くの大会が中止となっている中で、9件の競技大会にかかる派遣費補助を行い、派遣対象生徒に対し貴重な経験を得る機会に役立てることができた。 対象児童の視野が広がったかについて、派遣対象児童にアンケートを実施したところ、「技術面に関する課題が見つかった」「精神面において、学ぶものがあつた」等に対し「はい」と100%の回答を得ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルスの影響により派遣大会の開催数が減ったため、限られた児童生徒の派遣費補助となった。また、派遣件数が減ったことにより、学校や保護者の事業に対する手続き等に係る認識が薄れつつあるものと思われる。	学校や保護者に対し、再度事業に対する認識を深めてもらうため、周知の徹底や各種部活動等の活動状況をできる限り情報収集し、県外で開催される大会及び合同練習に一人でも多く参加できるよう派遣費を補助する。

今後の取り組み方針
コロナ禍においても、児童生徒が意欲をもって大会に臨めるよう、必要な派遣費の補助を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
522	324	259	65	198



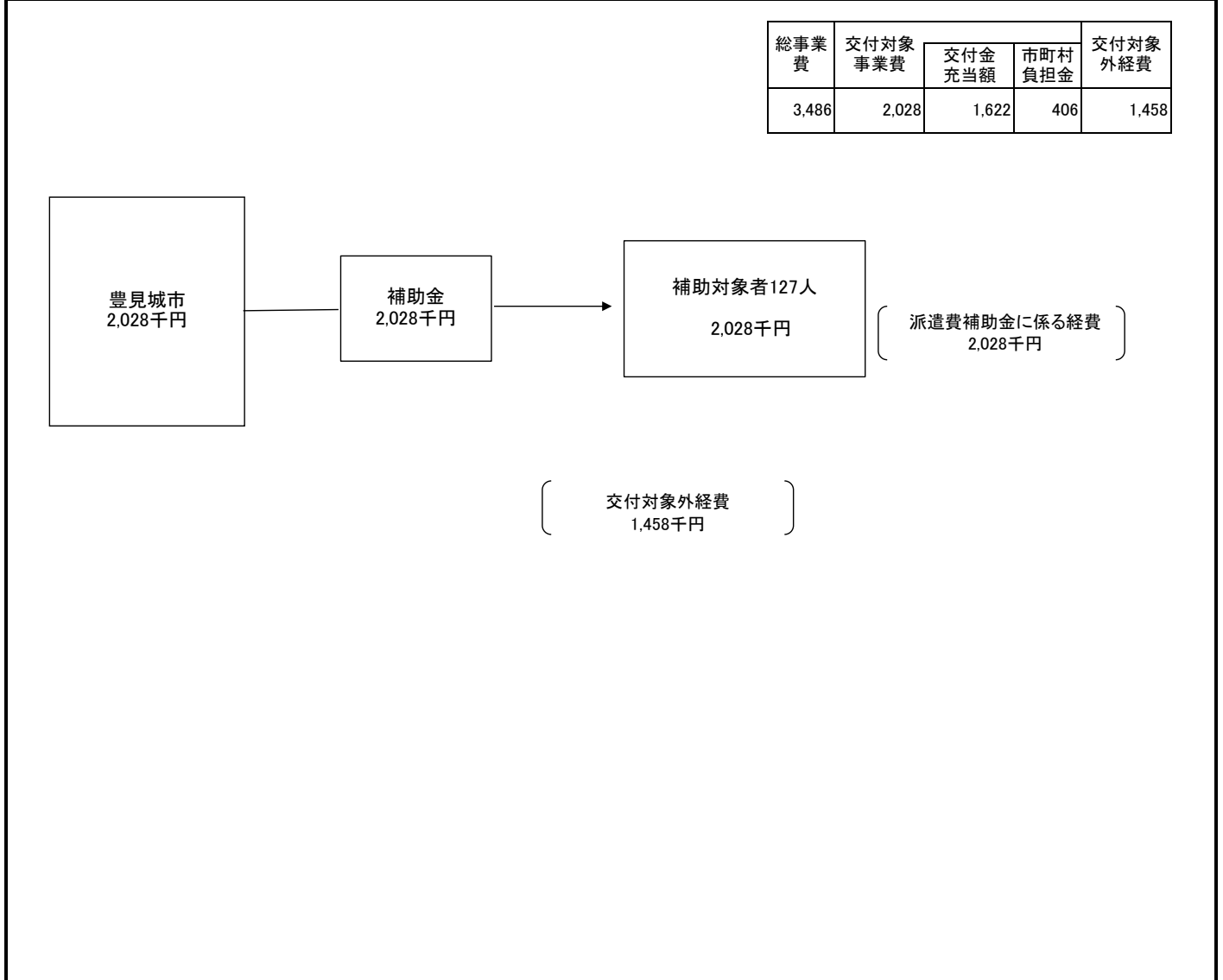
資金の流 れ、 点 検 評 価 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助要綱に沿った事業執行であるため補助先の選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は補助申請に基づいた規模であったため適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付要綱に基づいた支出となっているため、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助要綱に沿った支出であり費目・用途は適正である。

市町村名	豊見城市							
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑧	児童生徒派遣費補助事業(部活外)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部課名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	本市の児童生徒がスポーツ及び文化活動において、県代表として県外大会へ出場する際に必要な派遣費の助成を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,840	4,320	5,400	5,400	5,400	
		(b) 予算現額	6,840	4,320	6,542	1,440	3,240	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	1,142	▲ 3,960	▲ 2,160	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	6,840	4,320	6,542	1,440	3,240	
	B. 執行済額		5,920	3,135	4,811	372	2,028	
	うち交付金充当額		4,735	2,508	3,848	297	1,622	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		86.5%	72.6%	73.5%	25.8%	62.6%	
予算の状況の説明		昨年度比で倍以上の派遣費補助が執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	児童生徒派遣費の一部を補助		目標 (派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)		
			実績	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助		
			目標	()	()	()		
		実績						
達成状況説明		新型コロナウイルスの影響により、例年に比べると派遣数は少ないが、昨年度に比べると補助件数・補助額ともに増加となる派遣費補助を行う事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)	
	補助対象者の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。		目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績		98.90%	96.29%	98.68%	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明		・県外派遣補助をおこなった児童生徒数は127人であった。新型コロナウイルスの影響もあるが、昨年度に比べ徐々に申請件数も増加しており、本市の人材育成や競技力向上に役立てることができた。 ・派遣補助児童生徒127名を対象にアンケートを実施したところ98.68%が、自己の課題抽出や県外選手から学ぶものがあり、自己成長につながったとの回答を得ることができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>新型コロナウイルスの流行はいまだに続いている状況であるが、各競技団体とも感染症対策を取りながらの大会実施がされていることから、県外大会開催が徐々に増えてきている。県外大会への参加という貴重な機会を損なうことのないよう、派遣費の一部を補助することで多くの児童生徒の競技力向上に寄与している。</p>	<p>県外大会派遣後のアンケートによると、派遣された児童生徒のほとんどが、課題の発見や自己の成長を実感しており、適切な事業の執行ができていないことから、引き続き現行の方法による事業継続で問題ないと考えられる。</p>

今後の取り組み方針
<p>広報誌や市ホームページによる周知や学校への案内を行う。 児童生徒が日頃から取り組んでいる競技や活動種目が多様化してきていることから、各種大会・競技に関する情報収集に努め、大会主催者や保護者へ情報提供を行うと共に知人等への情報共有を行って頂くよう依頼していく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助(支出先)は交付要綱に沿って行っており、選定方法は適正と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、対象者からの申請に基づいた規模になっているため、適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付金での対象は、航空運賃1/2であり、それ以外については、市負担、保護者負担となっているため、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助は交付要綱に沿って行っており、費目・用途は適正と考えている。

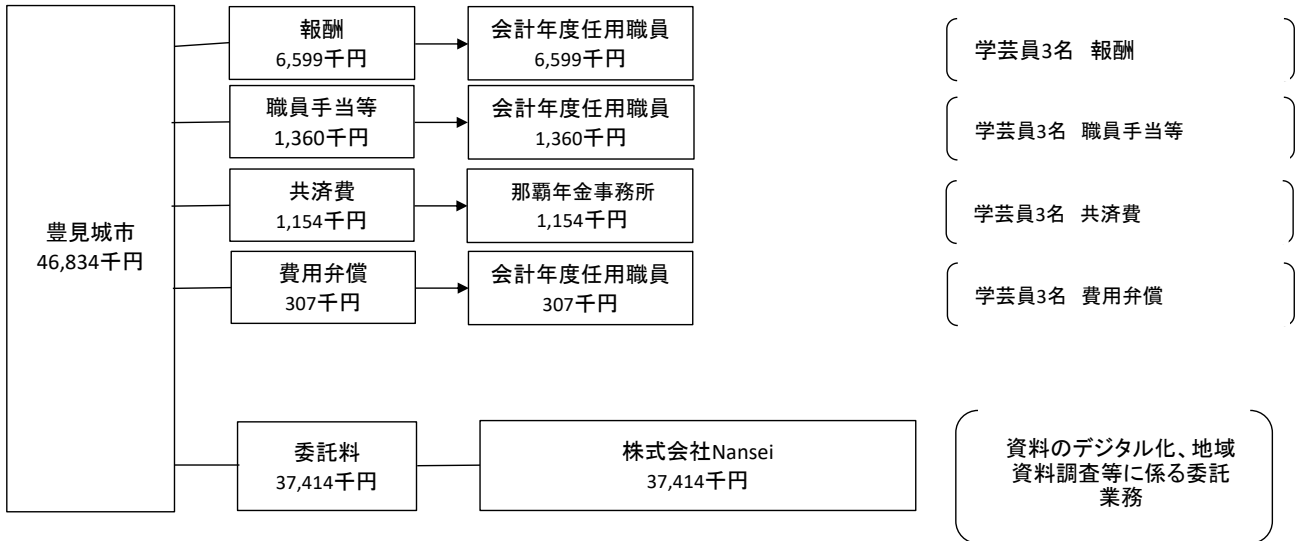
市町村名		豊見城市									
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	4-①		デジタル博物館事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア					
	担当部課名	教育部 文化課		事業実施(予定)年度	令和2年度～3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり				
事業内容		地域の歴史・文化に育まれた地域知的資産情報(文化財、博物館資料、写真資料、口承文芸資料等)に常時アクセスできる環境を整え、市民・学校・観光客等に豊見城市の魅力を発信するとともに地域文化の振興に寄与する。					Ⅲ-3-(2)				
	効果発現年度	■当年度		■後年度(令和4年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度	
		(a)当初予算額	31,994	47,185							
	(b)予算現額	31,994	47,185								
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0						
	(d)繰越額	0	0								
	A.計(b+d)	31,994	47,185	0	0						
	B.執行済額	31,657	46,834								
	うち交付金充当額	25,325	37,467								
	次年度繰越額	0	0								
	執行率(%) (B/A)	98.9%	99.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。										
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況								
			R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		
	収蔵アナログ写真資料のデジタル化作業10万点	目標	(10万点 1,050点)	(10万点 4,050点)	()	()					
	収蔵品写真撮影 4,050点	実績	10万点 1,050点	10万点 4,050点							
	地域資料収集作業 8地域	目標	(7地域)	(8地域 650話)	()	()					
	民話資料データ化 650話	実績	7地域	8地域 658話							
達成状況説明	収蔵アナログ写真資料のデジタル化はプリント資料とアルバム資料を中心に基礎整理と分類後、年代順にデジタル化。その後データベースを作成した。 収蔵品写真撮影は、学芸員が撮影や計測のマニュアルの整備を行ったうえで、撮影・計測を行った。 地域資料収集作業は、地域の自治会と協働の上で収集作業にあたり、自治会や個人提供の写真と情報を集約した。 民話資料は音声テープのデジタル化後、基礎分類を行い、全文テキスト化と音源データのノイズ除去処理を行った。										
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R4年度)				
	収蔵アナログ写真資料のデジタル化作業の完了(10万点) 収蔵品写真撮影の完了(4,050点)	目標	()	(10万点 1,050点)	(10万点 4,050点)	()	()	()	()		
		実績		10万点 1,050点	10万点 4,050点						
	地域資料収集作業の完了(8地域) 民話資料データ化の完了(650話) ホームページの公開	目標	()	(7地域)	(8地域 650話)	()	()	()	()		
		実績		7地域	8地域 658話 公開						
	進捗状況説明	収蔵アナログ写真資料のデジタル化は予定通り10万点のデジタル化が完了した。 収蔵品写真撮影は、学芸員が撮影や計測のマニュアルの整備を行ったうえで、予定通り4,050点完了した。 地域資料収集作業は、地域の自治会と協働の上で収集作業にあたり、予定通り8地域で収集活動を行い、過去の調査地も含め13地域の報告書を作成した。 音声資料は、予定を越えた658話について全文テキストの一次翻字が完了した。 ホームページは完成し、公開を開始した。									

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵アナログ写真についてアナログ状態の基礎整理が曖昧であると、デジタル化後の整理作業に時間を要する。 ・情報の聞き取りなどが高齢者中心であるため、十分に感染症対策を講じた上で事業を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵アナログ写真のデジタル化を行う前に、アナログ資料の状態で開催に則した基礎整理を行う工程を追加することが必要である。 ・感染症対策はその都度最新の情報を根拠に十分な方法で対策を講じる。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度も引き続き、計画したデジタル化作業について効率的・効果的な方法で事業を実施するとともに、令和4年度開始の各種歴史文化資料のデジタル化についても計画に基づいた事業実施に取り組む。 ・ホームページを中心にコンテンツの公開活動に取り組む、効果的な公開・広報活動を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
46,834	46,834	37,467	9,367	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式によって適切に選定している。 ○予算規模は、適切に予算を設定している。 ○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。委託業務完了段階で検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	サッカーキャンプ誘致推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	令和1年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	サッカーキャンプ受入に必要な機械備品の購入や芝生の維持管理委託を行い、サッカーキャンプ誘致に向けた施設の受入体制を構築することで継続的なサッカーキャンプ誘致を実現する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,330	14,740	14,740		
		(b) 予算現額	9,790	14,740	14,740		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,540	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	9,790	14,740	14,740	0	0
	B. 執行済額		9,790	14,740	14,740		
	うち交付金充当額		7,832	11,792	11,792		
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		サッカーキャンプ誘致に向けた芝生の草種変更及び管理について、専門業者委託を行い、当初事業計画どおりに予算を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	サッカーキャンプ受入に必要な芝生の維持管理及び草種変更	目標	芝生の維持管理(理及び草種変更)	芝生の維持管理(理及び草種変更)	()	()	
		実績	芝生の維持管理及び草種変更実施	芝生の維持管理及び草種変更実施			
			目標	()	()	()	()
		実績					
達成状況説明	サッカーキャンプの受入に必要な芝生の草種変更を通常のサッカー利用と併せて実施しつつ、年間を通して維持管理を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	サッカーキャンプ誘致件数:2件/件	目標	()	(2件)	(2件)	(2件)	()
		実績		2件	2件	2件	
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	サッカーキャンプの受入に必要な芝生の草種変更を実施し、令和4年1月～2月にかけて2件のプロサッカーチームの受入を実施した。						

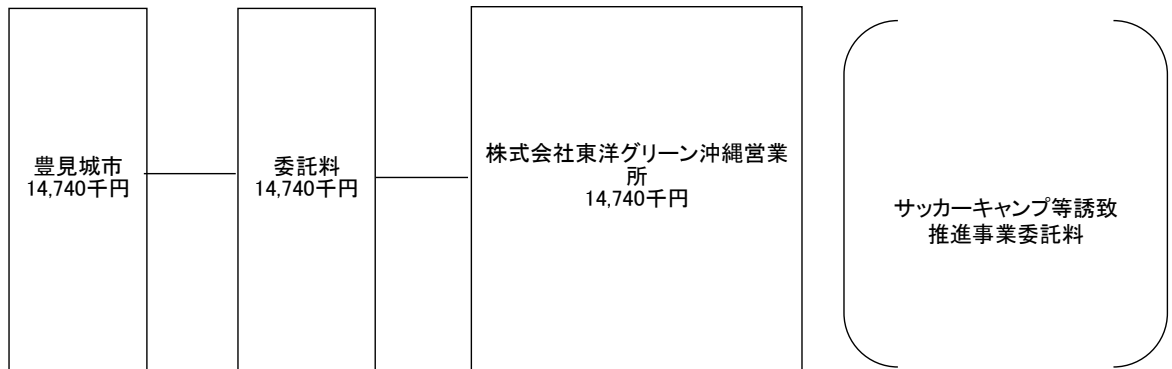
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(キャンプ受入の定着化) ・今後キャンプ受入実施の実現及び、継続的なクラブチームとの受入関係の構築のために市民との交流等、より地域に密着した関係の構築が課題となっている。	(キャンプ受入の定着化) ・今後キャンプ受入実施の実現及び継続的なクラブチームとの受入関係の構築のために市民との交流や宿泊受入の際の周知を図り、市民の受入気運を高める(クラブチームをウェルカムな雰囲気で盛り上げる)とともに、受入チームの要望等を実現し、継続的な受け入れに繋げる。

今後の取り組み方針

- ・持続可能なサッカーキャンプ受入に向けて、受入可能な芝生への草種変更の専門的な知識と技術を持つ業者を選定し、委託契約を行うとともに、サッカーキャンプ受入の際に市内スポーツ少年団とクラブチームとの交流を検討する。
- ・受入クラブチーム情報を市HPで積極的に発信し、市民の受入気運を高め(クラブチームをウェルカムな雰囲気で盛り上げ)、継続的な受け入れ体制を構築していく。
- ・夏場のオフシーズンの利用についても、Jリーグキャンプの受入実績をPRし、域外のクラブチーム受入れに繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
14,740	14,740	11,792	2,948	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○芝生の変更という特殊な作業に対して専門的な知識と技術が必要とすることから地方自治法施行令167条の2の1項第2号より随意契約にて実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業執行率100%で、必要かつ適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については検査を実施し、合格を受けていることから事業目的に必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	